



院長の入院の際には皆さんにご理解ご協力をいただき、また、励ましの言葉やお祈りを心より感謝いたします。院長の腹腔鏡手術は1月4日に予定時間と殆ど変わらない2時間40分で終わり、大腸の入口辺りを25センチほど切除しました。がんは直径3センチほどの楕円でステージ2でしたが、転移は全くなかったので抗ガン治療をしなくて済みます。

経過は順調で術後5日で退院許可がでましたが、8日後の12日に退院しました。私から見て、症状への対応の仕方がサイボーグのようで、ある症状が出る時サプリを選び、他の症状ではメガC点滴、ある場合には寝る、と自分で判断しながら驚異的な回復を見せています。相変わらず食欲はあり、あまり食べられない、と言いながら23日にはステーキを食べています。

先生大変ですね。無理をしないでください。と声を掛けられながらも、インフルエンザの流行下に多くの診察をこなしています。私の友人が、「良子さんは大変とかキツイとか考えない。しなければならぬことをこなす、それに対応できるように自分を管理調整する。」と褒めてくれましたが、まさしくその通りです。教会でも、ピアノの演奏をし、ワーシップタイムでは派手にジャズのように鍵盤を叩いています。礼拝後は、黙って休憩室に行き休んで、しばらくして何事もなかったように食事をして団らんを守っています。たしかに、大した人です。

患者さんへの指導をそのまま自分にも当てはめているのでしよう。つまり、自分にも当てはめられることを治療に使い、成果を確認してきたのです。このサプリ、こんなに効くのよ！と喜んでいますが、隣で心配する夫にとつては何か変な感じですか。でも、誠実な医師で良かったと思います。

夫婦の会話としては、この歳になって片方がいなくなったらたまらぬ、という実感を強く持ちました。どちらかが先立つ、ということは現実です。そのような方々の寂しさと切なさを想いました。改めて保険を確認すると、保険料は男の方が高く、給付金も少ないのです。つまり、がんになる確率は男の方が2倍も高いことが保険の料率でわかりました。これは大変だ！と散歩を増やし、サプリもきちんと摂るように心を改めています。がん療養中の妻が自分よりも私を大事にするのには困りましたが、それも意味があったのかと、健康自己管理を厳しく自分に戒めています。いろいろとありがとうございました。

事務長 柏崎久雄

感染症で受診される方へ

発熱やくしゃみ・咳症状のある方、水ぼうそう等伝染性疾患の方は、入口、待合室・診察室、会計の流れが異なります。また、トイレ後のハンドソープによる手洗いに協力ください。

★ 入口

正面入口横の中央通路のインターホンを押して下さい。

★ 待合室・診察室

2階の、第二待合室です。

★ 会計

疾患によっては、廊下会計となる場合があります。

ヨーゼフのキャンペーン

(3月8日(金)午前まで)
アミノコンプリート、BCAA、
グルタミン

聖書を読む会

2月19日(火)午後1時40～2時
当院待合室にて行います。

- * 2月より受付時間を以下のように変更します。
平日(午前8時30分～11時30分、午後2時～5時10分)、土曜(午前8時30分～11時30分、午後2時～4時半)。
- * (土曜3時～4時半)に変更になります。ご注意ください。
- * 8日(金)は院長が院外健診の為、午後は15時から診察です。
- * 千葉市の特定健診・各種がん検診は28日までです。
- * 病児保育のご利用には施設ごとの事前登録が必要です。書類は、ホームページからのダウンロードか、当院1階受付で配布しています。診察時間の変更に伴い、お迎え時間等が変更になっています。
- * 栄養指導を前日までにご連絡がなくキャンセルした場合、2160円のキャンセル料がかかります。また、2月より予約枠と予約時間が一部変更となります。ご注意ください。
- * 体組成計を健康管理にお役立て下さい。体脂肪量や筋肉量を始め、筋肉の左右バランス、内臓脂肪レベル、基礎代謝量、骨量などの測定ができます。栄養指導のご予約を頂いている方は無料で、その他の方は1回300円(税込)で測定できます。

《 院長自身のがん体験記 》

1. 検査数値がおかしい？

昨年8月9日、私たち夫婦は夏季休暇にウィーンへ行きました。現地の最高気温を調べるとネット情報では24℃前後で朝夕は17℃とあり、快適のように思われました。ところがついてみると、とても暑く感じ、ホテルまで乗車したタクシーの運転手に今年ウィーンはどうか、と聞くと、Very hot!と答えられました。私は、旅の途中で疲労感があり、不整脈が起こり、長距離を歩く時には休みながら歩きました。

帰国して体調を調べるために血液検査をしたところ、前年の10月に156あったフェリチン（貯蔵鉄）が7月に55に下がり、10月にはなんとフェリチンが36、血清鉄47に下がってしまいました。どこかに出血があるようです。便潜血では2回続けて陽性（2日のうち1日のみ陽性）で、この貧血のために自律神経も不調となり、不整脈も出た可能性が強いのです。大腸内視鏡検査の必要を覚え、11月1日に国立医療センターの内科を訪れました。

2. 診断から手術に至るまで（栄養素と超高濃度ビタミンC治療）

11月8日に大腸内視鏡を実施したところ、カメラが回盲部に達した時、医師は「これはいけませんね」と口に出しました。おそらくがんと診断したのでしょうか。内視鏡終了後、その日のうちに造影剤を使った胸腹部CT検査で転移がないかどうかの検査を行いました。

私はそれまで通常、疲れを取り体調を守るために高濃度ビタミンCの点滴を50gで週2回のペースで行っていました。11月22日の診察で正式に直腸がん（腺がん）の診断を受け、同時に外科手術を勧められました。年末以降で手術日をいつにするかという問いに、私は1月4日の手術日を希望しました。手術日まで6週間。この間、しっかり栄養を整え手術に臨めば、傷口も回復が良いはずと考えました。ビタミンCは体内で超高濃度（がんに対抗するには400mg/dl以上）を保てば、抗がん作用やそれだけではなくがんを取り巻くコラーゲン膜を生成しがんの浸潤を防ぐのに役立ちます。子どもたちが心配して、手術日を早めたほうがよいのではないかと言いましたが、私はこの2つの方針で手術に備えることに決めました。その時から本格的にがんに対する栄養治療を始めました。その内容とは以下のものです。

A. 栄養素

- ビタミンC（できるだけ1時間に1g、実際には2時間ごと2g、抗酸化、抗炎症作用）
αリポ酸の摂取も効果的なのですが、胃酸との関係で私には取りづらかったのです。
- ビタミンB群（50mg、代謝を促す）
- ミセル化したビタミンA 6万単位、カロテノイド600mg（抗酸化、膜の強化、がん進展防止）
- ビタミンD3（10,000単位、がんの増殖と分化を抑制）
- カルシウムとマグネシウム（225mg～550mg、点滴による損失を補正、不整脈の調整）
- ヘム鉄16mg（貧血の改善）
- 亜鉛45mg（亜鉛濃度の改善と膜強化）
- DNA150mg（栄養の吸収促進、がんの進展防止）

核酸の一つDNAの合成にはデノボ合成とサルベージ合成とがあり、その総和は一定である。DNAを多く摂るとデノボ合成の核酸が少なくなり、デノボ合成でしか増殖できないがんの増殖抑制に役立つ。デノボ合成とは肝臓（一部腎臓）でアミノ酸その他の化合物からタンパク質を合成する方法、哺乳動物では肝臓以外ではその比率は著しく低い。

- 乳酸菌300～600億個（腸内環境改善と免疫力強化のため）
- 天然ビタミンE800IU（抗酸化、膜の強化、血流改善）
- プロテイン30g、アミノ酸（免疫力の維持、コラーゲン生成による浸潤抑制）
- βグルカン（がんによる炎症の抑制と新しい血管造成の抑制作用進展防止、免疫力強化）400mg

- C o Q 1 0 (200 mg、抗酸化と代謝改善、不整脈予防)

がんはアルブミンなどのタンパク質やブドウ糖を自分の栄養として消費してゆくため、身体は低栄養状態になりやすいのです。ミネラルは吸収される際、腸内での吸収が拮抗し易いので、朝晩にヘム鉄、昼食後に亜鉛、寝る前にカルシウムなどタイミングを工夫しながら摂り、体力の乏しさを感じた時にはアミノ酸を補ってゆきました。

B. 超高濃度ビタミンC治療 (メガC点滴)

私が超高濃度ビタミンC療法を知ったのは19年前、ケンビの20周年記念公演の講師の一人であるヒュー・リョウダン博士の講演を聞いたときでした。博士は超高濃度ビタミンC治療の先駆者として、アメリカのウイチタに広大なセンターを建て、超高濃度ビタミンC治療を行い世界中から患者さんが集まっていました。その功績は現在も今なお受け継がれています。人は血中のビタミンC濃度が上がってもその代謝の過程で生成される過酸化水素を分解するカタラーゼがあるため、害にはなりません。ところが血中濃度が高濃度に達した段階でビタミンCが細胞間質からがん細胞に至り、発生した過酸化水素の生成によりがん細胞が破壊されます。なぜならがん細胞には過酸化水素を分解するカタラーゼという酵素が不足しているからです。この酵素の量は臓器によっても差があるらしく、反応の良さはステージだけではなく臓器によって多少異なる場合もあります。こうした抗がん作用は血中のビタミンC濃度が400mg/dlを越えたころから現れると言っておられました。それは点滴で1回に50~100gが必要で週2~3回の点滴を行います。さらに講演後のパーティで博士から直接聞いたことですが、チオクト酸(αリポ酸)を400mg以上同時に使うとビタミンCの効果が倍増すると言っておられました。日常的に酸化ストレスが溜ると、ビタミンCの点滴を始めても濃度の上昇が遅れます。日頃から抗酸化の栄養素を毎日しっかりとることが肝要です。

今回私は診察後看護師に点滴をしてもらい、同じビル内にある自宅でそれを続けられたことは感謝なことです。時には自分で点滴をさし、50~100gを週3~4回行っていました。そして毎回点滴中、同時にチオクト酸(αリポ酸)を600mg混注しました。

メガC点滴を行うと、身体のだるさが取れ、疲労感が癒えてゆき、血液が入れ替わるような変化と身体の軽さを感じました。どこかに炎症があると身体がそのストレスに対抗し、過重の労働をしているのでしょうか。タンパク質と主にビタミン、ミネラルの消費も多いと思われます。免疫力を損なわないよう栄養(特にタンパク質)をしっかりとることが必要です。免疫細胞もタンパク質を材料にして作られるからです。ビタミンCは点滴をすると、水分やミネラルを尿中に排泄させるため、脱水に似た症状と頭痛がたまにありました。そのときには水分とともにミネラル特にカルシウムやマグネシウム、時に塩分の補給をすると回復してゆきました。多少の血管痛が出たことはありますが、ほぼ通常通り点滴できました。チオクト酸はカルシウム剤と同時に使用できないため、前後でカルシウム剤を服薬することが必要でしょう。また、ビタミンCは細胞基底膜のコラーゲンを強化する働きがあり、これにより、がんが血管やリンパ管まで侵入することを予防できます。コラーゲンはタンパク質と鉄、ビタミンCとで作られるので、良質のタンパク質をしっかりとることや貧血があればその改善も必要です。

私は今回の手術の前に、大腸内視鏡2回、胃内視鏡検査、そして大腸エックス線検査(バリウム検査)を行いました。注腸の検査説明の際に、私は回盲部のあたりに輪のようなものを確認しました。

あるドクターの発言では、メガC点滴を行っている患者さんの腫瘍の周囲に白っぽい輪のようなものが観察されるようになったそうです。これは、2回のノーベル賞を受けたライナス・ポーリング先生の言われたところのコラーゲンバリアかもしれないということです。手術後に切断した患部を娘と夫が見ましたが、腫瘍の周りに白い輪のようなものがあつたと言っていました。それがコラーゲンバリアかもしれません。確かに11月の下旬から12月初旬の腫瘍の感触は硬くコツコツとした鈍い痛みがありましたが、記録ノートによるとブニョブニョした軟らかい感触に変化しました。もしそうであるなら、がんがその枠の外にまで進展しないようバリアとしてコラーゲンを形成するのにビタミンCが役だっていたのかもしれません。

C. 大腸内視鏡の画像より

マリヤ・クリニックは千葉医療センターの登録医なので、患者さんの理解をもとに患者さんの受けた治療結果、検査データを当院で見ることができます。そこで自らの大腸カメラの結果を見ますと、11月22日より、12月27日のほうが患部の赤みが減っており、出血領域も少し小さくなっていました。同時に見た看護師も同じ感想を持ちました。メガC点滴で患部の炎症が少なくなったことがわかります。

3. 術後の診断と現在の生活

術後2日後からおも湯が出て、少しずつ食べられるようになってきました。経過が良いので、術後5日で退院の許可が下りました。

がん組織検査の結果はステージIIa、18個のリンパ節で転移なし、遠隔転移なしでした。今後転移をしていないかどうか、半年毎のCT検査で追跡してゆくということです。

日毎に体力が増し、普通に近い食事もとれるようになってきました。当然、サプリメントは十分に摂っております。そして、手術の9日目に退院し、12日後に当院で診察を再開しました。インフルエンザの流行で忙しい毎日ですが、最初の1週間はメガC点滴で疲れをとり、その後は通常の生活に戻ったような感じがあります。

4. 今回の治療から感じたこと

12日間の入院の日々、十分休養がとれて、私にとっては、手術はありましたが良き休日となりました。家族はもちろん、全国から激励とお見舞いのお言葉が寄せられ、わたしはこんなに多くの方々を守られ、生かされているのだと今更ながら実感しました。本当にうれしく思いました。ありがとうございました。病室も広い個室が借りられ、朝には窓から臨む富士山や夕日が落ちる景観もすばらしかったです。今まで自分の力で動きすぎた時間がなんと多かったことか。それまでの生活を家族、友人に任せ、クリニックのスタッフにゆだねて、自分の身体の管理に専念できたことは人生の歩みの断面の別の側面を見るような経験でした。

このたびの私の選んだ治療方法は皆さんにとっても最善とは限りません。経済的にも、環境的にも、その他多くの点で私は恵まれています。また、2週間で入院、手術を済ませ、回復して診察の現場に戻らなければならないという切迫感もありました。限られた状況と時間で過ごした私の選んだ選択肢でした。患者さんのために2001年から日本で最初に導入したメガC点滴を自分がやるようになるとは思ってもみませんでした。そして、こんなに効果があるのだということを実感できたことは、医師としては励ましを感じました。体調が悪く、症状も厳しいほど、サプリメントの効果もよく実感できました。

この経験を大事にし、皆さまのお心づかいに感謝し、これからも診察を続けて行きたいと思えます。ただ、診察時間を少し変更して、昼の休憩時間を取れるように、また診察終了を少し早くするようにします。皆さまにはご迷惑をお掛けしますが、宜しくお願い致します。ありがとうございました。

《 診 療 時 間 》 (2月から下線部変更)

月曜～金曜 (午前8時30分～11時30分、午後2時～5時10分)

土曜 (午前8時30分～11時30分、午後2時～4時半)

休診日 木曜、日曜、祝日、年末年始

- ・各種健康保険取扱機関
- ・生活保護指定機関
- ・介護保険取扱機関
- ・特定疾患取扱機関
- ・結核予防法指定機関
- ・自立支援医療機関
- ・身体障害者認定医
- ・各種健康診断
- ・小中台小学校校医
- ・栄養医学(分子整合医学)



(携帯サイトへ)

㈱ヨーゼフの営業時間も変更します。

- 月、火、水、金曜 (午前10時～12時半、午後3時～5時半)
- 土曜 (午前10時～12時半、午後3時～4時半)